

新図書館の向かい側 目立つ空き地



JR亀山駅前の再開発事業で、図書館とマンションの建設が進んでいます。この再開発エリア(2ブロック)は、税金を投入すれば建物が建ちますが、図書館の向かい側(3ブロック)は道路用地として1、5mさがっており、空き地が目立ちます。

この3ブロック側は、再開発エリアではありませんので、民間が投資しなければ建物は建ちません(左の写真。手前の建物も取り壊し)。

80億円超えの事業費の是非が問われる

こうした空き地に新たに事業をするという話は聞きません。市は亀山駅前のにぎわいを取り戻すと活性化させるとして事業を始めましたが、この3ブロックの空き地の状況はその可能性のなさを物語っています。いくら立派な図書館やマンションを建てても、向かい側が空き地では寂れたままということになります。

80億円超えの事業費を投入したことの是非が問われる事態です。

ふるさと納税は3,565万円の損失

ふるさと納税は、他の自治体からの寄付金から返礼品などの事務にかかった費用を引くと実際に使える寄付額が出ます。一方、市民が他の自治体へ寄付をすると、市民税が控除されます。つまり、実際に使える寄付額と市民税控除額の差し引きがふるさと納税の決算です。

亀山市のふるさと納税の決算は、2020年度は3,565万円の損失でした。過去に遡ると2019年度が3,300万円の損失、2018年度が2,200万円の損失、2017年度が1,700万円の損失、2016年度は850万円の損失です。

返礼品目当てで寄付 市民税の控除を受ける

亀山市民で他の自治体の返礼品目当てで寄付をして、市民税の控除を受ける人が多いということが理由のようです。ふるさと納税制度で財源づくりをと主張する人もいますが、これでは財源づくりにならないどころか市の財政の損失です。

ふるさと納税は愚作だと言わざるを得ません。

この議会報告は毎月月初めに発行しています

好きです 亀山 住みよい街に

2021年 11月 7日 発行 No. 269

こうきの議会報告

日本共産党亀山市議会議員 服部 孝規

〒519-0156 亀山市南野町6-19-1

ご意見、ご感想は kouki.giin@gmail.com ツイッターでも発信中

電話、FAX 0595-82-3646 市議団ホームページ「共産党 亀山」で検索を

リニア亀山駅の候補地案

この程度の提案でもコンサルに大金

一政党の党首を決めるだけの総裁選を連日、やかましいほど報道したTVが、総選挙になってからはニュース等で選挙区情勢を伝える程度で、掘り下げた報道はほとんどなし。これでは政権側の広報媒体と言われても仕方がない。



さて、10月7日にリニア中央新幹線建設促進三重県期成同盟会臨時総会が開かれ、櫻井市長からリニア亀山駅の3つの候補地が提案されました。今後、有識者による評価・分析と県同盟会市町や経済団体との意見交換を経て、来年夏頃に県期成同盟会総会で候補地を決議し、JR東海へ要望する予定らしい。

3つの候補地は左の地図の通り(色の濃い部分)で、市内北部地域と旧関町を除く広い地域になっています。この程度のものを作るのに、コンサルに1,670万円も使うのかと言いたくなります。

結局、広い範囲でどこにでもできる提案

同時に隣接する鈴鹿市のどこを通るのかで駅位置が限定されますが、鈴鹿市とは協議をしていません。リニアはその性質上、直線でしか走れないため市街地は避ける必要があります、鈴鹿市でも走れる場所は限られているのです。

また下庄駅周辺の案では、東へ直線に伸ばしていくと津市(旧芸濃町)に入ることになりますが津市とも協議はしていません。

結局は広い範囲でどこにでもできるという候補地案を作ったことになり、この程度の提案に大金を使いコンサルを使う必要などありません。

やはりリニアは予算でも特別扱いなのです。

リニア工事初の死者 工事を一時中断

『作業員2人が死傷したリニア中央新幹線の瀬戸トンネル(岐阜県中津川市)工事現場の崩落事故で、JR東海は28日、発破作業に伴う「肌落ち」と呼ばれる岩石の崩落に作業員が巻き込まれたことを明らかにした。山岳トンネルの工事を中断し、作業手順の徹底など安全対策を進めるという(以下省略)』(10月28日の共同通信の記事)。

リニア中央新幹線の工事で初めて死者が出ました。亡くなられたのは働き盛りの人で、心よりご冥福をお祈りします。

この事故を受けて日本共産党の本村伸子前衆院議員らは、JR東海岐阜工事事務所で第三者による原因究明、工事の中止を申し入れました。JR東海側は、第三者検証には明確に答えませんでした。

気候危機 人類の未来がかかっている



「気候危機を打開する 日本共産党の2030戦略」という冊子を読みました。気候変動問題は今回の総選挙でも重要な争点の一つになりました。

国連ICPP(気候変動に関する政府間パネル)は今年8月、新たな報告書を発表し、「人間の影響が温暖化させてきたことにはもはや疑う余地はない」としました。これから10年足らずの間に、全世界のCO2排出を半分近くまで削減できるかどうか、ここに人類の未来がかかっています。

石炭火力や原子力発電への固執を切り替える

日本共産党の提案は、①2030年度までに(省エネと再生エネを組み合わせ)てCO2を50~60%削減する、②脱炭素、省エネ・再エネをすすめる社会システムの大改革を、③脱炭素と貧困・格差是正を二本柱にした経済・社会改革で、持続可能な成長をなどを掲げています。

同時に、個々人の家庭の努力だけでは、脱炭素は実現できません。気候変動の重大な危機は、石炭火力や原子力発電に固執する今の政治を変えることには打開はできないのです。

「鈴鹿関ー奈良時代の国家戦略ー」という冊子



現在、歴史博物館で第37回企画展「鈴鹿関・奈良時代の国家戦略」が行われています(12月12日まで。入場無料。毎週火曜は休館)。先日見に行きましたが、そこで手に入れたのが「鈴鹿関ー奈良時代の国家戦略ー」という冊子(400円)です。

この冊子は、「ごあいさつ」で「本企画展では、鈴鹿関跡そのものだけでなく、鈴鹿関が所在した古代の鈴鹿郡の姿についても検討を試みています。」とあるように、第1章では「亀山市内の国史跡」、第2章では「道を塞ぐー内乱の時代ー」、第3章では「鈴鹿関と制度ー奈良時代の政策ー」、第4章では「鈴鹿郡の古代」、第5章は「鈴鹿関跡」というように古代の鈴鹿郡の姿を追っているのが興味を引きます。

当時の鈴鹿関の役割や国家体制などがわかる

特に今回、国の史跡に指定された築地塀は西の端にあり、そこから東へ広がっているのが鈴鹿関であり、全体像は不明な部分が多く残っています。この小冊子では、そんな当時の鈴鹿関の役割(道を塞ぐ)、どんな国家体制だったのか(鈴鹿関と制度)、鈴鹿郡とは(鈴鹿郡の古代)などが古文書などから解き明かされています。古代史に関心のある人には必読の書です。

副読本に「亀山の列車銃撃」

市教育委員会が「亀山市にまつわる人・もの・こと」副読本を作成しました。この副読本は、生活科や総合的な学習、社会科などの授業で活用するものですが、その中に「亀山の空襲」として「亀山の列車銃撃」も掲載されています。これには、市民団体が市との協働事業に取り組んだことも反映しています。2019年度に市との協働事業で「戦争遺跡に平和を学ぶ亀山の会」が「亀山市の戦争遺跡マップ」を5千部作成したことや亀山九条の会が進めてきた列車銃撃を記録する活動も反映しています。教育を通じて子どもたちに伝えて欲しいものです。

